

(講座)  
(氏名) 藤秀人

(研究室) 治療薬剤学  
(職名) 准教授

### 【研究テーマ】

1. 生体リズムを基盤とした医薬品適正使用に関する研究
2. 投薬タイミング規定因子を用いた癌化学併用療法に関する研究

### 【論文発表】

#### A 欧文

##### (A-a) 原著論文

1. H. Sakaguchi, A. Kodama, M. Tomonari, Y. Ando, M. Tabuchi, H. To, R. Araki, T. Kitahara, H. Sasaki, S. Ohdo and S. Higuchi: Pre-administration of docetaxel protects against adriamycin-induced cardiotoxicity. *Breast Cancer Res. Treat.* 109: 443-450, 2008. (IF: 4.453)
2. M. Matsumoto, R. Kishikawa, T. Kurosaki, H. Nakagawa, N. Ichikawa, T. Hamamoto, H. To, T. Kitahara and H. Sasaki: Hybrid vector including polyethylenimine and cationic lipid, DOTMA, for gene delivery. *Int. J. Pharm.* 363: 58-65, 2008. (IF: 2.408)
3. K. Ohyama, N. Kishikawa, H. Nakagawa, N. Kuroda, M. Nishikido, M. Teshima, H. To, T. Kitahara and H. Sasaki: Simultaneous determination of mycophenolic acid and its acyl and phenol glucuronide metabolites in human serum by capillary zone electrophoresis. *J. Pharm. Biomed. Anal.* 47:201-206, 2008. (IF: 2.761)
4. T. Kurosaki, T. Kitahara, M. Teshima, K. Nishida, J. Nakamura, M. Nakashima, H. To, H. Hukuchi, T. Hamamoto and H. Sasaki: Exploitation of De Novo helper-lipids for effective gene delivery. *J. Pharm. Pharm. Sci.* 11: 56- 67, 2008. (IF: 1.689)
5. M. Nakashima, T. Nakamura, M. Teshima, H. To, M. Uematsu, T. Kitaoka, K. Taniyama, K. Nishida, J. Nakamura and H. Sasaki: Breakdown evaluation of corneal epithelial barrier caused by antiallergic eyedrops using an electrophysiological method. *J. Ocular Pharmacol. Ther.* 24: 43- 51, 2008. (IF: 1.034)
6. K. Miyana, T. Yoshioka, H. Nakagawa, T. Kitahara, H. To, N. Ichikawa, M. Nakashima, K. Nishida, J. Nakamura and H. Sasaki: Influence of murine hepatitis induced by D-(+)-galactosamine hydrochloride and lipopolysaccharide on gene expression of polyethylenimine/plasmid DNA polyplex. *Biol. Pharm. Bull.* 31: 1585-1588, 2008. (IF: 1.614)

#### B 邦文

##### (B-a) 原著論文

1. 濱本知之、樋口則英、三宅秀明、清水和宏、佐藤伸一、稲岡奈津子、森田光貴、西田孝洋、中村純三、藤秀人、北原隆志、佐々木均：院内製剤 5%ハイドロキノロン軟膏の使用状況とその有用性に関する調査 *日病薬誌* 44: 1495-1498 (2008)
2. 山口健太郎、大山要、稲岡奈津子、樋口則英、兒玉幸修、江頭かの子、藤秀人、北原隆志、佐々木均：超音波洗浄器を用いた注射用シクロホスファミドの溶解法に関する検討 *日病薬誌* 44: 1504-1506 (2008)

3. 樋口則英、潮田瑞穂、森田光貴、佐藤加代子、中川博雄、江頭かの子、塚元和弘、藤秀人、北原隆志、佐々木均：総合ビタミン配合型高カロリー輸液製剤の適正使用状況調査 *新薬と臨床* 57:1532-1538 (2008)
4. 大山要、樋口則英、宮永圭、稲岡奈津子、山口健太郎、兒玉幸修、江頭かの子、中川博雄、藤秀人、北原隆志、佐々木均：悪性リンパ腫化学療法後の granulocyte-colony stimulating factor (G-CSF)の投与開始時期が白血球の回復に与える影響 *日病薬誌* 44: 731-734 (2008)
5. 森田光貴、樋口則英、濱本知之、稲岡奈津子、藤秀人、北原隆志、佐々木均：市販ソフトを用いた静脈栄養処方設計支援システムの開発と評価 *日病薬誌* 44: 735-739 (2008)
6. 中村忠博、一川暢宏、江頭かの子、大山要、松永典子、田中恵美、鶴丸雅子、藤秀人、北原隆志、佐々木均：治験依頼者より提出された補償資料と同意説明文書の記録内容に関する比較検討 *医療薬学* 34: 461-466 (2008)
7. 中川博雄、小嶺嘉男、大山要、兒玉幸修、樋口則英、藤秀人、北原隆志、佐々木均：各種保存条件におけるヘパリンおよびエチレンジアミン四酢酸のシクロスポリン血中濃度測定値に及ぼす影響 *日病薬誌* 44: 577-579 (2008)
8. 樋口則英、稲嶺達夫、兒玉幸修、森田光貴、佐藤加代子、塚元和弘、境徹也、澄川耕二、清水和宏、佐藤伸一、藤秀人、北原隆志、佐々木均：院内製剤 20%塩化アルミニウムエタノール（汗水）の効果および副作用の検討 *日病薬誌* 44: 269-272 (2008)

## 【学会発表】

### A 国際学会

#### (A-b) 一般講演

1. H. To, H. Yoshimatsu, S. Irie, K. Ohbayashi, T. Kitahara, I. Ieiri, S. Ohdo, S. Higuchi, H. Sasaki: Therapeutic index of methotrexate depends on circadian cycling of tumor necrosis factor-alpha in MRL/lpr and collagen-induced arthritis mice. CPT 2008 Conference (Québec, July, 2008)
2. H. Sasaki, T. Kurosaki, H. To, T. Kitahara: Influence of murine hepatitis induced by D-(+)-galactosamine hydrochloride and lipopolysaccharide on gene expression of polyethyleneimine/pDNA polyplex. 2008 AAPS Annual Meeting and Exposition. (Atlanta, Nov., 2008)
3. H. Sasaki, T. Kurosaki, H. To, T. Hamamoto: Hybrid vector including polyethylenimine and cationic lipid, DOTMA, for gene delivery. 2008 AAPS Annual Meeting and Exposition. (Nov., Atlanta, 2008)

### B 国内学会

#### (B-a) 招待講演,特別講演,受賞講演

1. 藤秀人：関節リウマチの時間治療 第15回日本時間生物学会（岡山、2008年11月）

#### (B-b) 一般講演

1. 友成真理、藤秀人、北原隆志、佐々木均：ドセタキセル併用によるアドリアマイシンの心組織中フリーラジカル産生抑制作用に関する機序解明 第29回日本臨床薬理学

会年会（東京、2008年12月）

2. 友成真理、藤秀人、牛島健太郎、荒木良介、濱本知之、北原隆志、佐々木均：docetaxel 先行投薬による adriamycin 誘発心毒性軽減の機序解明 日本薬剤学会第23年会（札幌、2008年5月）
3. 藤秀人、佐々木均：マウスを対象とした抗リウマチ薬タクロリムスの時間薬理的検討 第52回日本リウマチ学会学術集会（札幌、2008年4月）
4. 藤秀人、児玉亜由美、大戸茂弘、家入一郎、佐々木均、樋口駿：Cisplatin・Docetaxel 併用療法における至適投薬方法の構築に関する基礎的研究 第6回日本臨床腫瘍大会（福岡、2008年3月）
5. 児玉幸修、樋口則英、江頭かの子、山口健太郎、濱本知之、藤秀人、北原隆志、佐々木均：がん化学療法の遅発性悪心・嘔吐の予防に対する制吐療法の実態調査と評価 第18回日本医療薬学会年会（北海道、2008年9月）
6. 北原隆志、田中茉莉子、手嶋無限、山原梢、中島憲一郎、龍恵美、濱本知之、藤秀人、佐々木均：処方適正化に向けた調剤処方箋の疑義照会内容の評価・解析 第41回日本薬剤師学術大会（宮崎、2008年10月）
7. 北原隆志、中川博雄、清水千恵子、藤秀人、佐々木均：MEIA法、CLIA法およびACMIA法を用いたタクロリムス血中濃度測定と比較検討 第18回日本医療薬学会年会（北海道、2008年9月）
8. 鶴丸雅子、金崎優子、小橋川智美、豊田智子、前田靖子、宗像千恵、江頭かの子、山根智子、藤秀人、松瀬厚人、北原隆志、佐々木均：長崎大学医学部・歯学部附属病院におけるプロトコール逸脱の分析とその対策 第28回日本臨床薬理学会年会（栃木、2008年12月）
9. 中川博雄、北原隆志、清水千恵子、児玉幸修、濱本知之、藤秀人、佐々木均：化学発光免疫測定法（CLIA法）を用いたタクロリムス血中濃度測定法の評価 第25回日本TDM学会学術大会（東京、2008年6月）
10. 黒崎友亮、手嶋無限、西田孝洋、中村純三、藤秀人、北原隆志、佐々木均：新規膜融合脂質の探索 第24回日本DDS学会（東京、2008年6月）
11. 江頭かの子、樋口則英、中川博雄、児玉幸修、山口健太郎、濱本知之、藤秀人、北原隆志、佐々木均：イマチニブの服用時刻が悪心発現に与える影響 第18回日本医療薬学会年会（北海道、2008年9月）
12. 原澤仁美、手嶋無限、嶺豊春、向江俊彦、中嶋幹郎、長井一浩、上平憲、藤秀人、北原隆志、佐々木均：血液製剤の使用指針を用いたアルブミン製剤の適正使用の評価・解析 医療薬学フォーラム2008（東京、2008年7月）
13. 岸川礼子、松本恵、黒崎友亮、中嶋幹郎、藤秀人、北原隆志、佐々木均、PEIとDOTMAを用いた新規 lipopoliplex の開発 第24回日本DDS学会（東京、2008年6月）
14. 稲岡奈津子、児玉幸修、樋口則英、山口健太郎、中川博雄、藤秀人、北原隆志、佐々木均：TS-1の間欠投与法における有害事象発現に関する調査 医療薬学フォーラム2008（東京、2008年7月）

## 【研究費取得状況】

1. 薬物間相互作用および腫瘍の生体リズムを基盤とした個別化治療予測システムの開発；平成 20 年度 科学研究補助金 特定領域研究
2. 生体リズムモニタリングによる抗リウマチ薬の時間薬物療法の確立；平成 20 年度 厚生労働省科学研究費 免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業
3. レチノイドの投薬時刻の違いによる抗リウマチ効果への影響；平成 20 年度 乙卯研究所 研究助成金

#### 【学会役員等】

1. 日本臨床薬理学会：評議員
2. 日本薬学会：医療薬科学若手シンポジウム世話人
3. 長崎県病院薬剤師会：理事

#### 【過去の研究業績総計】

原著論文（欧文）	31 編	（邦文）	9 編
総説（欧文）	0 編	（邦文）	5 編
著書（欧文）	0 編	（邦文）	0 編
紀要（欧文）	0 編	（邦文）	2 編
特許	0 件		